

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「夢をつなぐ、文化をつなぐ、地域をつなぐ」総合学科高校

「つなぐチカラ」(知識・技術・情報をつなぐ活用するチカラ、人と人をつなぐ協働するチカラ、自分と社会をつなぐ自立するチカラ)を育むことで、社会に貢献する人を育てる。

1. 多様な進路希望を持つ生徒に対し、「活用するチカラ」を育み、「夢をつなぐ(夢を叶える)」学校をめざす。
2. 多様な文化を認め、共に生きることで、「人権意識」、「他を思いやる心」を持つ「協働するチカラ」を育み、「文化をつなぐ」学校をめざす。
3. 「安全で安心」な学校生活、地域との連携の学びから、「自立するチカラ」を育み、「地域をつなぐ」学校をめざす。

2 中期的目標

「生徒ファースト～達成感・充実感・納得感～」を基本的な考え方とし、生徒の視点を大切に、生徒の学びと成長にとって何が必要かということを最優先に教育活動に取り組む。平成30年度の総合学科改編において、一人ひとりの生徒の多様な学びと進路を実現する教育内容と教育環境の一層の充実を図る。

*学校生活満足度(学校に行くのが楽しい・自分のクラスは楽しい、平成29年度73%)を平成32年度には80%以上をめざす。

1. 夢をつなぐ(確かな学力と進路実現)

(1) 生徒の達成感のある授業をめざし、ユニバーサルデザインに基づいた「視覚化・構造化・協働化」をテーマに授業充実に取り組む。

ア 授業アンケート、授業充実研修、授業見学週間、授業公開を活用し、「視覚化・構造化・協働化」をテーマに授業充実に取り組む。

「視覚化・構造化・協働化」をより具体化するためICTを活用し、アクティブラーニングの視点を大切に授業を進化させる。

*生徒向け学校教育自己診断における授業の満足度(平成29年度71%)を平成32年度には72%以上をめざす。

*生徒向け学校教育自己診断における選択科目の満足度(平成29年度82%)を引き続き82%以上を維持する。

(2) 希望する進路を実現できる「確かな学力」の育成

ア「総合的な学習の時間」やLHRの時間に、3年間を見通したキャリア教育や人権教育を実施し、多様な進路希望を持つ生徒それぞれの夢の実現を図る。

そのため、進学説明会、就職説明会、分野別説明会、進路体験学習、インターンシップなどを一層充実させる。

*生徒向け学校教育自己診断における進路指導関係の項目の満足度(平成29年度74%)を平成32年度には75%以上をめざす。

*学校斡旋就職率100%、希望する大学・短大・専門学校への進路実現率95%を維持する。

2. 文化をつなぐ(「人権意識」が身についた「他を思いやる心」をもつ生徒の育成)

(1) 総合的な学習の時間やLHRで人権教育を一層充実させることで、生命と人権を尊重し、他を思いやる「豊かな心」を持つ生徒を育成する。

ア「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」の学習状況や活動状況を校内で共有し、「日本人生徒」との共生を図る。

*生徒向け学校教育自己診断における人権に関する項目における肯定率(平成29年度86%)を引き続き85%以上を維持する。

3. 地域をつなぐ(安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり)

(1) 生徒の納得感のある指導により、規範意識の醸成と個々の生徒への支援を行う。

ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成を図る。また、保護者や関係諸機関との連携を図り、教育相談体制をさらに充実させて、課題を抱える生徒の支援を行う。

*生徒向け学校教育自己診断における生活規律等の基本的生活習慣に関する項目の肯定率(平成29年度72%)を平成32年度には75%以上をめざす。

*保護者向け学校教育自己診断における生徒指導に関する項目の肯定率(平成29年度77%)を平成32年度には82%にする。

イ「高校生活支援カード」等を活用し、課題を抱える生徒の状況把握に努め、必要に応じて支援や外部機関等との連携に努める。

*生徒向け学校教育自己診断における教育相談に関する項目の満足度(平成29年度53%)を平成32年度には55%にする。

(2) 生徒の充実感のある学校行事や部活動を通じて生徒の自主性、自己有用感を醸成する。

ア 学校行事や生徒会活動を通してやる気のある生徒のリーダーシップを育てる。

*生徒向け学校教育自己診断における学校行事、部活動、生徒会に関する満足度(平成29年度79%)を平成32年度には80%以上をめざす。

イ 部活動の活性化に継続的に取り組む。

*部活動加入率は50%を維持する。

(3) 地域連携

ア 学校から積極的に情報を発信し、開かれた学校づくりを推進する。

*近隣の中学校との連携や広報活動、地域連携授業、地域のイベントへの積極的参加等を通して、地域に根ざした学校づくりを推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の73(85)%、保護者の81(85)%が「この学校には他の学校にない特色がある」と答えている。普通科総合選択制については生徒の多様な進路や興味・関心に応えるエリアや多くの選択科目についての肯定率は高い。今年度は総合学科改編初年度であった。2年目より開講される系列科目、進路選択科目の充実をはかることで総合学科としての特色をだしていく必要がある。 ・「授業はわかりやすく、集中して受けることができる」が昨年度の71%から64%に下がっている。全教職員が授業規律の確立を徹底し、学習環境の維持につとめることが重要である。また「教え方に工夫をしている先生が多い」も66%から63%であるが、授業の視覚化を着実に進め、教員の授業への工夫をさらに進めていくことが大切である。 ・「授業で自分の考えをまとめたり、パソコンなどを使用して発表する機会がある」が68%から65%になっている。今後も主体的・対話的で深い学びの視点を意識した授業が多くの教科で実践され、学びあったり発表したりする機会を増やしていくことが必要である。 ・今後、さらに授業の視覚化・構造化・協働化を進め、生徒に「つなぐチカラ」をつけさせる授業作りに全校で取り組んでいくことが必要である。 	<p>第1回(平成30年6月11日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ア) 学校教育自己診断は、8割ほどが「他の学校にない特色がある」と回答しており、昨年度の教育活動の成果がうかがえる。 イ) パワーグラフは、個人差があり、生徒によっては難しい取り組みであると思う。自己発見ができ、大きくかわるきっかけとなっほしい。 ウ) 福祉教育において、パワーグラフのような振り返りの機会はあるが、研究発表を行うことで人権教育にも通じるところがある。 エ) 昨今の情報社会において、生徒が安易にネットやSNSで発信し、個人情報が拡散することも心配である。 オ) 地域交流活動は、非常に評価されている。個性を活かせる高校だと信じている。一年生からしっかりと基礎固めを行う必要がある。 キ) 私立高校では、小・中学校の部活動を取りまとめて大会を行っていると聞いている。各校の情報を収集し、改編広報コア会議等で検討する。

府立成美高等学校

<p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の面で78(84)%の保護者が生徒を正しい方向に指導していると評価している。また、生徒指導の方針に共感できるという回答は70(69)%であった。今後さらに常識やマナー、他者への思いやりや配慮に重きを置く本校の生徒指導に、生徒の視点に立った納得感のある指導を進めていくことが必要である。また、生徒の70(72)%が「生活規律や学習規律の確立に力を入れている」と肯定的に捉えている。「安全で安心な学校」を維持するために、全教職員が生徒指導は生徒の意欲を高めるための指導だという共通認識を持ってあたるのが重要である。 ・「文化祭は周りとは協力しておこなえる」78(77)%、「体育祭は周りとは協力しておこなえる」78(75)%であった。「部活動は活発である」は64(68)%であった。今年度も多くの部活動が良い結果を出してきた。今後、さらなる活性化のために、現在頑張っている生徒を校外外にアピールするとともに来年度複数の部活動で成美カップ(仮称)を実施し、本校の部活動を知ってもらい取組みをおこないたい。今後、全ての学年で「やる気のある」生徒のリーダーシップを育成するために、様々な場面において生徒を中心に活動をおこなうようにすることが、生徒の自主性や達成感を高めるとともに生徒会活動や部活動さらには学校生活の活性化につながっていくものとする。 ・77(79)%の保護者が進路指導に対して肯定的に答えている。これは大阪府内平均よりも高い就職内定率や進学希望者ほぼ全員の合格率を誇る進路指導への信頼感が大きく影響している。今後も進学指導を充実させ、進路指導部や学育成部、学年が連携し進学講習等の指導に取り組む必要がある。 ・文化祭や体育祭等の行事、部活動活性化等における生徒会役員の貢献は非常に大きい。今年度から全校集会も、生徒会を中心におこなった。また、学校説明会等も毎回生徒会が進行をしている。今後、さらに生徒が活躍できる場を増やせるように工夫したい。生徒会役員や生徒委員会を中心に据え、生徒主体の活動への理解を深める必要がある。 <p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校に行くのが楽しい」は68(71)%、「自分のクラスは楽しい」は70(74)%で昨年度より少し下がっている。「生徒ファースト」をテーマに学校の全ての教育活動を進めているが、生徒ファーストをどのように進めていくかを教職員で再確認をする必要がある。 ・「相談に適切に応じている」と答えた保護者は76(81)%であった。今後も連携を密にし、共通認識を持って取り組むことが大切である。また、「困っていることに真剣に対応してくれる」と答えた生徒は67(68)%だった。生徒の満足度を上げるためには、教員と生徒と関わる時間(量)の確保とカウンセリングマインドをもった生徒との関わり(質)を学校全体で検討し、工夫する必要がある。 ・「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」が67(72)%であった。これは校長ブログや学校広報Tブログなどが学校の情報を発信しているが、また十分に広報できていないことが考えられる。今後もさらに学校からの情報を素早く発信していく必要がある。 	<p>第2回(平成30年9月19日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ア) 地域の夏祭りに中文の獅子舞が参加した。生徒にとってもよい経験であり、広報にもなっていると思われる。生徒指導が厳しいという伝統は、よいことだと思う。教員が子どもをしっかり育てている。進路実績にもつながっていると思う。 イ) 文化祭の一般公開は、中学生は制服を着ていれば入場させるのはどうか。保護者は招待状なしでよいと思う。 ウ) 大学では、学祭で入試説明会を実施している。高校でも取り入れてはどうか。 エ) 普通科からどのようにして総合学科ができたのか、という狙いの部分を簡潔に明示する必要があるのではないか。 オ) 改編に伴いカリキュラムも大幅な変更があり戸惑いも多いと思われる。働き方改革による定時退勤日の設定といわれているが、生徒対応に追われているため難しいところもある。中学校においても、職業講話や職場体験(2日間)を実施しているので、キャリア教育基礎はできている。 <p>第3回(平成31年1月28日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ア) 授業公開では、プロジェクターを活用して授業をされている先生方が多かった。先日、高大連携授業でグループワークを行った。積極的に取り組む生徒の姿があった。 イ) 部活動が活発であるかが気になっている。生徒によっては、部活動が積極的な学校を選んでいくこともある。部活動を通して社会性を養ってほしい。 ウ) 中学校では、私立受験のための模擬面接を行っているが、将来の夢、将来の職業を決めている生徒は3割に満たない。高校での人間形成が、将来の進路に結びつくのではないかとと思われる。教員による広報活動にくわえて、高校在校生が、卒業中学校を回って、後輩たちに宣伝するのも効果があると思われる。成美カップで部活動の活性化を図ることはよいことである。 エ) 学校運営協議会の協議によって、「平成31年度 学校経営計画」は承認された。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
生徒ファースト	「生徒ファースト」を基本的な考え方とした教育活動	「生徒ファースト～達成感・充実感・納得感」を基本的な考え方として、生徒の視点を大切に、生徒の学びと成長を最優先に教育活動に取り組む。	学校生活満足度(学校に行くのが楽しい・自分のクラスは楽しい、平成29年度73%)を平成30年度には75%以上をめざす。	学校生活満足度は、平成30年度69%となり、約4%下降した。授業、学校行事などの充実を一層図る必要がある。(△)
1. 夢をつなぐ(確かな学力と進路実現)	(1) テーマ「視覚化・構造化・協働化」とした授業充実の取り組み ア 授業アンケート、授業充実研修等を活用した授業充実の取り組み イ ICTを活用した授業、アクティブラーニング授業の研究 (2) 希望する進路を実現できる「確かな学力」の育成	(1) ア・「授業アンケート」を分析して課題を把握し、授業改善を継続する。 イ・授業充実研修でICTを活用した授業、アクティブラーニングを実践例とした研修を実施し、相互研鑽の場とする。 (2) ア・進学希望先に応じた小論文や面接指導の実施。3年間に実施する各種説明会や進路体験学習を充実させる。 ・キャリアガイダンスを充実させるとともに進学講習体制を確立する。 イ・就職支援コーディネーターを活用し、模擬面接、インターンシップ等を充実させる。	(1) ア・「授業アンケート」の「教材活用」に関する肯定的意見80%を維持(平成29年度80%) ・生徒向け学校教育自己診断の選択科目に関する満足度82%を維持する。(平成29年度82%) 授業に関する満足度72%以上をめざす。(平成29年度71%) (2) ア・生徒の希望する進路の実現率95%を維持。(平成29年度98.6%) イ・1回目の就職試験合格率70%以上を維持。(平成29年度78%) 学校斡旋就職希望者の就職率100%(平成29年度100%)	(1) ア・「授業アンケート」の「教材活用」に関する肯定的意見は、80%を維持した(○)。 ・生徒向け学校教育自己診断の選択科目に関する満足度76%となり6%ダウンした、生徒の多様な興味関心に応えるエリアや選択教科が高い肯定率の大きな要因となっている。(△) 授業に関する満足度64%となり7%ダウンした。ICTの活用授業は多くなっているが更なる授業充実が必要である。(△) (2) ア・生徒の希望する進路の実現率98.7%となった。(○) イ・1回目の就職試験合格率74.1%となった。学校斡旋就職希望者の就職率100%(○)
をもち生徒の育成	(1) 人権教育のさらなる充実 ア「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」と「日本人生徒」との共生	(1) ア「総合的な学習の時間」やLHRで人権教育に関する指導を充実させるため、多文化理解公演を2回実施する。1年生は中国文化理解 LHR で中国等帰国生徒の卒業生との交流や中国食文化の体験などを行う。	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率85%以上を維持する。平成29年度86%)	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率80%となった。本校の人権教育に関する肯定率は、高い数字となっているが、85%以上を維持できるように当事者との出会いや参加型の人権学習を計画的に実施していきたい。(△)

府立成美高等学校

<p>3. 地域をつなぐ(安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり)</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の醸成と個々の生徒への支援 ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成 イ 教育相談のさらなる充実</p> <p>(2) 生徒の自主性、自己有用感の醸成 ア 生徒会活動のさらなる充実 イ 部活動のさらなる活性化</p> <p>(3) 地域連携 ア 地域から信頼される学校づくり</p> <p>(4) チーム学校 ア 外部機関との連携 イ 働き方改革を意識し、業務の適正化と組織的・効率的な学校運営</p>	<p>(1) ア・全教員による登校指導の継続実施 ・遅刻指導・服装指導の徹底を図り、基本的生活習慣を確立させる。 イ・カウンセリングマインドを持ち、共感的な姿勢で生徒の日常の教育相談を進める。 ・「高校生活支援カード」を活用し教育支援委員会(週1回)において、課題を抱える生徒の状況を把握し支援を行う。いじめパイロット校、課題を抱える生徒フォローアップ事業による SC, SSW との連携を密にし、生徒支援を行う。また、必要に応じて「個別の教育支援計画」の作成、ケース会議の開催、関係諸機関との連携を図る。 ウ・人権教育推進委員会、教育支援委員会が連携し、情報の共有、迅速な対応を図る。</p> <p>(2) ア・体育祭、文化祭の企画運営、学校説明会等での活躍の場を一層増やし、生徒会役員をリーダーに据える。 イ・新入生オリエンテーション、体験入部を実施。 ・中高連携の部活動交流を行う。 ・大会やコンクール入賞の部の支援を行い、さらなる活性化をめざす。</p> <p>(3) ア・改編・広報 PT コア会議(仮称)(週1回)を実施し、総合学科の教育内容の充実をはかり、広報活動を組織的に行う。 イ・地域のイベント等への積極的参加 ・生徒会役員、部活動部員を中心に地域清掃等へのボランティア参加 ・中高連携、地域連携授業をさらに充実させ、積極的に学校の情報を中学校や保護者に発信すると共に、開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>(4) ア・SC, SSW や外部機関と連携し、組織的な生徒支援を行う。 イ・働き方改革を意識し、マニュアル作りを進め、業務の適正化をはかり、組織的・効率的な学校運営をめざす。</p>	<p>(1) ア・生徒一人当たりの遅刻回数5回以下(平成29年度5.5回) ・生徒の懲戒件数15件(平成29年度11件) ・生徒向け学校教育自己診断の基本的生活習慣の確立に関する肯定度73%以上(平成29年度72%) イ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における肯定率54%(平成29年度53%)</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断における生徒会活動に関する肯定度80%以上をめざす。(平成29年度78%) イ・部活動加入率50%をめざす。(平成29年度43%) ・大会やコンクールの入賞数10以上(平成29年度47) ・中高連携部活動交流5回以上(平成29年度15回)</p> <p>(3) ア・近隣中学校の訪問5回以上実施(平成29年8回) イ・地域のイベント参加数25件以上(平成29年度30件) ・校区一斉清掃活動などの参加各15名以上(平成29年度40名) ・地域連携授業の継続実施</p> <p>(4) 各分掌で業務のマニュアル作りを進める。</p>	<p>(1) ア・生徒一人当たりの遅刻回数は、6.8回(△) ・生徒の懲戒件数27件(△) ・生徒向け学校教育自己診断の基本的生活習慣の確立に関する肯定度70%となった。(△) イ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目は肯定率54%となり1%UPした。(○)</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断における生徒会活動に関する肯定度76%となった。生徒会の体育祭や文化祭での活躍が目立った。文化祭での肯定率は1%向上した。(△) イ・部活動加入率は、42.1%となった。(△) ・大会やコンクールの入賞数は、47となった。 放送部:6年連続NHK杯全国高校放送コンテストに進出した、サッカー部:数多くの大会に参加して活躍している。女子バスケットボール部:府大会3回戦に進出した。硬式テニス部:堺市民大会など多くの大会で表彰された。バドミントン部:堺市民大会個人優勝、ダブルス3位、演劇部:地区大会優秀賞で表彰された。卓球部:大会で勝利するなど活躍している。中国文化春暁倶楽部:50回以上の公演を行い、四天王寺ワッツにも出演した。(◎) ・中高連携部活動交流の実施回数を10回実施した。(◎)</p> <p>(3) ア・近隣中学校の訪問を9回行い、中学校との連携を大切にすることで、教育活動へいかすことができた。(◎) イ・地域のイベント参加数33件となり、様々なイベントへの参加があった。(◎) ・校区一斉清掃活動などは、考査1週間前と重なり、生徒が参加ができずに参加6名にとどまった。(△) ・「なるみっ子クラブ」、「縄文土器製作」など地域連携授業を継続実施した。(○)</p> <p>(4) 業務のマニュアル作りを進めた。今後は、丁寧な読み合わせをし、組織的な運用をはかりたい。(○)</p>
---	---	--	--	--